

NPシステム 点呼システム

NPシステム開発（塩梅敏社長、松山市）が開発した、AI（人工知能）搭載の点呼システムは、一つの機器で対面点呼、IT（情報技術）点呼、遠隔点呼、電話点呼など全てに対応できるのが特長だ。現在は乗務後自動点呼の機能を実装しており、1月24日に国土交通省から同自動点呼機器の認定を受けた。認定はナブアシスト（江口大介社長、前橋市）の「点呼十（プラス）ロボット版」に次ぎ2例目で、今後は乗務前自動点呼に対応する。

新製品名は「AI点呼システム」。点呼は種類によって実施要件が異なり、遠

隔点呼では顔認証などが必要になるが、新製品は全種類の点呼を同一システムで全て使い分けて実施できる。仮に重大事故が発生してGマーク（安全性優良事業所認定）が取り消しになり、IT点呼を実施できなくなっても、顔認証など関連機能を追加すれば遠隔点呼などに切り替えることが可能だ。

乗務後点呼の様子（システム画面はイメージ）



同社はデジタルタコグラフィメーカーで、AI点呼システムは運送会社の要望を基に設計・開発し、2021年7月から発売している。

AI・対面など全種対応

乗務後むけ 2例目の機器認定

同社のデジタルタコと運行管理システム「web地球号」と連動させることで、24年度に施行される改正改善基準告示や時間外労働上り限規制などに違反しそうな運行に対して事前に警告メッセージを発することが可能。運送会社のコンプライアンス（法令順守）や安全性のレベルがより高まる。

その一方で、点呼実施者は乗務後点呼時に次回乗務予定を入力し、予定を確認しながら点呼業務を行うことが可能。また、点呼記録データをweb地球号の就業時間管理に活用すれば、乗務員の就業時間の開始・終了などを自動的に集計し、残業時間を管理することが可能。

更に、点呼執行者はAI点呼システムで帳票（点呼記録簿、日常点検票、運転者台帳、拘束時間管理表、運行時間管理表、運転指示書）を確認・印刷し、その内容を基に適切な指導を行うことが可能だ。ドライバーがタッチパネルで入力するオプション機能も用意。普段パソコンを使わない乗務員でも簡単に操作できる。業務連絡事項がある場合に録音機能で簡単に伝達する機能もあり、録音データは関係者にメールで自動送信され、事務所内で迅速に共有できる。

NPシステムは、ワンストップで導入を支援する体制も整備。点呼用カメラや監視カメラ、モニター、血圧計、体温計、アルコール検知器など周辺機器については全て同社が手配し、最適なセットを運送会社に提案する。

NPシステムは「デジタルメーカーで点呼システムを開発しているのは当社だけ。点呼のみならず、基幹システムを含めて運送業全般をカバーしている。新製品を通じて運送会社のコンプライアンスや安全レベルの向上、業務効率化に更に貢献していきたい」としている。（江藤和博）